

日本を美しくする会・鍵山教師塾主催

# 第28回「鍵山教師塾」in 朴の森

## 感想文集



令和6年6月22日(土)・23日(日)

## ■日程

《22日(土)》

- 10:30 集合・受付@鍵山記念館
- 11:00 開会式@鍵山記念館
- 11:30 昼食@耕心の里→施設見学
- 12:30 講話 代表 鍵山幸一郎氏
- 13:40 講話 副代表 藤野貴之氏
- 14:50 トイレ掃除実習@耕心の里
- 16:00 初日閉会
- 16:20 掃除道具準備
- 17:00 懇親会@一隅の里
- 18:30 バス出発・ホテルへ

《23日(日)》

- 7:00 バス・ホテル出発
- 7:45 防府市立牟礼中学校着
- 8:15 朝礼
- 8:45 トイレ掃除実習
- 10:45 着替え
- 11:15 閉会式・解散
- 12:00 送迎バス出発
- 12:40 バス・新山口駅着
- 13:30 バス・山口宇部空港着

■参加者26名







★東京都・教員★

① まず、2日間にわたり、ご指導いただいた幸一郎さん、藤野先生、利会長、見えないところで学びの場を整えてくださった朴の森のスタッフの皆様、学びの場を毎回快く提供してくださる牟礼中学校の校長先生、田中先生はじめ職員の皆様、そして一緒に学んでくださった皆様にお礼を申し上げます。本当に有難うございました。幸一郎さんから学んだことは、今の世の中に「違和感」をいだけるような気づき力を高めていくことの必要性です。小さな違和感に気づき、それに対して具体的に行動していく。世の中の荒みをなくしていく。そのために、教訓を学び、教訓を自分のものにして生きていくことも大切だと学びました。

鍵山相談役の「悔やみ」のお話は、これまでそのようなことは考えてみたこともなかったのですが、とても驚きました。自分本位の小さな悔やみではなく、相手本位の悔やみをもてるような人間になりたいと思いました。

藤野先生からの学びは、何度も言葉にされていた「私たちが気づいた一つの提案」「こういう形でできるという事例」という言葉でした。実践してみる、継続していく中で、自分も「提案」や「事例」をつくっていけるようになっていきたいと思います。また、「悪気があれば謝れる、悪気がないと謝れない」というお話も刺さりました。悪気がないが故に人に迷惑をかけてしまうような人間にならないように、気づく力を高めていきたいです。

★大阪府・教員★

2日目のトイレ掃除実習では、高校生の掃除に取り組む姿勢や最後の感想発表から掃除の力を感じました。明らかに昨年会った彼らとは取り組む姿勢の深みが違いました。これは負けていられないと思いました。自分も日常で実践し、「あの人は変わったな」と思われるくらい精進してまいります。

② 「心願」を自分の勤務校で実践し、深めていきます。いただいたご縁や学びを自分の場所で止めるのではなく、世の中のために還元していきます。そして、自分なりの「提案」「事例」をつくれるように努力してまいります。

① この二日間、掃除について、学ぶことについて、深く考える時間をいただきました。私たちが求めていく学ぶとはどういうことなのか。単にノウハウではないというが、ではどういうことなのか。教えれば教えるほどに受け手は教えを乞うようになる。それらのことに対しての問いをいただけました。

目的にあるように、鍵山秀三郎相談役の生き方に学ぶ、ということ、日々の日常の中から、自分の中で咀嚼し、考えていきたいと思いました。

学んだというよりはきっかけをいただいたように感じています。

② 教える、伝える、広めるということは別に、自分での実践を積

み重ねていきたいと思えます。

それが陰徳に繋がっているのだと思えました。具体的な内容については、個人で深めていくものであるかと思うために差し控えますが、集団の重要性と個人の必要性を感じました。その両輪のバランスが取れなくなると偏ってしまうのだと思えます。

★★★京都府・京都掃除に学ぶ会★★★

① まず、鍵山掃除というご縁で、夏目漱石や山岡鉄舟、鈴木大拙という日本を代表する偉人たちが坐禅してきた由緒ある鎌倉円覚寺の居士林が移築されたというのは、非常に大きな意味があると思ひ深い感銘を受けました。掃除が坐禅と結びつくものであり、また掃除の中に日本的資質を磨くなかがあることの実証ではないかと思ひます。居士林が創設される背景には、明治の廃仏毀釈で仏教界が相当地ダメージを受けている中、円覚寺の今北洪川老師がリードしていったと聞いています。それは、幸一郎さんの講話にもあった日本の荒んだ状況をいかに立て直していくか、という思いに近いものではないでしょうか。

私が今回改めて気づかされたのは、お掃除は陰徳を積む行だということ。みんなで善行を積むということは、非常に励まされるし、刺激し合うことになり、素晴らしいと思う一方、それが陰徳として個々に励むことが非常に重要だと思ひました。また、個々に打ち

込むところに深まりが出て、広がりも出てくるのでしょうか。私はまだまだ、お掃除を例外なく継続することができておりません。それは、志が弱いからなのでしょう。単なるお掃除から掃除”道”に深めていくことを真剣に取り組んでいきたいと思ひます。それには、ただお掃除をやっているだけでは不十分であるとも気づきました。鍵山幸一郎さま、藤野貴之先生、朴の森のスタッフの皆様、牟礼中学校の田中先生、そして実行委員の皆様、見えないところでたくさん準備をしていただき、誠にありがとうございました。一緒に準備を進めてきた中にこそ、多くの学びがありました。

② 下記のことを実践したいと思ひます。  
鍵山相談役の著書(特に一日一話)を読み込み、日々のお掃除に落とし込んで考えること。例外なく掃除を続けること。他の”道”を学びつつ、掃除”道”とは何かを問い続ける。

★★★山口県・朴の森スタッフ★★★

① 主に会の運営と掃除のリーダーを担当しました。  
何かをするとき、自分がその会の中でどう動けばうまくいくのか、その立ち回り方が勉強になりました。いわばプロデューサーの役割のことです。特に今回は梅雨時期で、開催日がちょうど雨の日と重なりました。雨の日に何の心配をしなければならぬのか、どこに気を遣わなければならないのか、裏での動きを学びました。何かを

運営するという事は、当日までの準備もちろん重要ですが、ある程度決まっている予定に対して余白を作っておくことだと学びました。予想外のことに對してどんな判断をするかに、日頃の自分が現れるということの意味が分かったような気がします。

2 日目の掃除実習では、何をとは言いませんがやっているかやっていないかが如実にわかる出来事がありました。受け止め、改善していきます。

② 何をするにしても「準備八割」だと言われる理由を今回身をもって感じました。

できなかったことについて考えても、結局はなぜ準備を早くからやらなかったのかという話に収束します。これから行うことや問題に對して、見通しは立っているか、優先順位は合っているか、見えない人やモノの動きがみえているかなど、を基準に行動していきます。

★★★東京都・教員★★★

① 二日間、運営側として参加させていただきました。やはり、この場に來ると身が引き締まる想いです。二日間、日々の実践に活かせるとても充実した二日間でした。

「深まれば広がる」この言葉が私の学びでした。日々、広がりを感じていたのですが、その個々の深まりはあるのか。掃除でもそうですが、授業でもそう感じております。この教師塾と言う場はそう言っ

たことに改めて気づける場所だと感じました。私自身しっかりと深め、実践に繋げていきたいと考えております。

② さっそく、街頭清掃とトイレ掃除の実践を行いました。まずはやってみるそこから、考えてみるを実践しました。掃除道具も協力承り、実践できることに感謝しかありません。

この場で得た、味方考え方を日々の生活、いや、私自身の歩みに取り入れていきたいと考えております。

★★★東京都・教員★★★

① 「鍵山教師塾 in 朴の森」に参加させていただくにあたり、この会を通して出会った方々との「繋がり」や「継続」することの意味を考えた時、そこにはそれぞれの使命を担われた方々の、並々ならぬ思いや祈りが込められていることを感じずにはいられません。

二日間での学びでは、「小さなことをおろそかにしない」という「小さいこと」ほどこそ気を遣わなければならないという大きな学びがありました。それは、鍵山幸一郎様の御講話の中にあつたように人間は自然に多様化する存在です。

「多様化する価値観」―。それは多くの考え方を「容認」しているように見えて、実は「これぐらいはいいだろう」と「放任」してしまっている現状があります。個人の小さな欲望を「許す」ことで、蓄積された小さな欲望が心の「緩み」となった時、組織や国全

体の「歪み」が生じてきます。この「歪み」を矯正するためには、正しい方向を示すことと、守るべき「秩序」を維持する力が必要です。

何故、そのような力が必要なのかというと、物事は放っておくと自然と乱雑・無秩序な方向に向かい、自発的に元に戻ることがないからです。そのため、「意識」をして戻す・整えるということは、自発的な行動、つまりその分のエネルギーを要します。乱雑な状態が大きい程、負担するエネルギーも大きくかかるため、「秩序」を保つためには「小さなこと」でも元に戻す努力と、気がついたらすぐにするという習慣など、本質からずれていけないように日常生活の中で意識をして自分の心を鍛えていかなければなりません。

今もこうして欲望と理性の狭間で揺れる自分を律するのは、「掃除」であると実感すると共に、崩壊しつつある国の「秩序」を戻すには、教育現場やそれぞれの置かれた立場の中で実践するしかないと思えました。

② 今回、二回目の開催となる「鍵山教師塾 in 朴の森」では、掃除を長年続けてこられた方や初めての方など全国からそれぞれの思いを持ってのご参加がありました。縁あって「鍵山教師塾」に集まられた方々との「繋がり」は「継続」しなければ生まれません。

最初是一本の生糸のような細い繋がりも撚り糸のように合わさっていくことで、より強固のものになっていきます。「鍵山教師塾」を寄り集まった会ではなく撚り合わさっていく会として未来を見据えた時、私達を繋ぎ、撚り合わせているものは何なのか。

私達が目に見える形で活動し、学ぶことができているのは、常に誰かに思われ祈られている存在であるということ、そのことを胸に自分も一本の糸として、与えられた目の前のことを受け止め、次に繋げて参りたいと思います。

「すべては後から来る人のために―」

最後に、鍵山秀三郎相談役をはじめ多大なるご支援とご指導をいただきました鍵山幸一郎様、藤野先生、利会長、見えないところでサポートしてくださいました朴の森のスタッフの皆様、教師塾参加者の皆様、トイレ清掃をさせていただいた田中先生をはじめ牟礼中学校の教職員、卒業生の皆様、素敵なウエルカムボードをくださいました生徒の皆様のお心遣いに感謝申し上げます。ありがとうございました。

★★岐阜県・教員★★★

① 最も大きな学びは、「人を大切にすること」です。会当日に至るまで、参加者が迷わないようLINEでの連絡が何度もありました。

会当日も受付で渡されたお茶の缶に名前シールが貼られていました。藤野先生のお話で「最初のご挨拶です」とあり、そこには参加者を大切にしている気配りと、「ありがとう」が生まれる仕組みがありました。掃除道具の扱い方、清掃・片付け、保管についても大切にされ、道具

を大切にすること自体が、対象、相手を大切にすることに繋がることに繋がっているとお話に納得しました。それだけでなく、道具を洗い片付ける人、次に使う人という、目の前にいない人にも気を回し、気を配ることを学びました。

鈍感な私は、目の前に困っている人を見ても中々気付かず動けないこともありすが、目の前のことは当然として、今この場にいない人、未来に繋がる人にも思いを馳せ、その相手を思った行動をしていくことが大切。そのことを鍵山幸一郎代表はじめ、藤野先生、スタッフの皆様の姿から気付かせていただきました。

② 学校現場で勤めています。子ども達を動かそう、動かそうとしてしまいがちです。曖昧な指示を出し、子ども達が分からないまま進め失敗させ、注意をすることもありません。

「人を大切にすることとは、自由という名の放任ではありません。指示を出す側が、具体的に伝えたり、上手くいく環境を整えて、子ども達が達成感や充実感を感じるように導くことだと思えます。目の前の子ども達の現状をもとに、先を予想し、子ども達にとって分かりやすく気持ちよく動けるようにすること、また、動きたいと思えるように導くことだと考えました。

また、勤務校のトイレや教室を、子ども達と一緒に掃除をし、綺麗になること、綺麗にする事の喜びを共有したいと思えます。綺麗な環境が子ども達の心によい影響を与え、綺麗にする行為が子ども達の心に感動を与えるものと信じて実践していきます。

★京都府・京都掃除に学ぶ会★

① 鍵山相談役の生き方は、脈々と確実に繋がっていているんだ！と、感じました。・自分の体・指先一本一本、それを生んだ下さった親・祖先に感謝します。

② 自分の傾向として、「他人との比較」や「他人を評価」が、出てしまいます。それを、「過去の自分と比較」「今の自分を評価」にしていきます！ありがとうございます。

★千葉県・会社員★

① 昨年、掃除を初体験する為に教師塾に参加。教師塾を通じて、「日本を美しくする会」は掃除のやり方を学ぶ場所ではなく、掃除に学ぶ場所と知る。その後、日常生活を過ごす中で、鍵山相談役が掃除を始めた理由を知りたいと思い、2回目(今回)の参加を決意。かかる中、今回の教師塾初日に鍵山相談役の志願・使命感を知り、鍵山相談役が後年に掃除をしていた理由が「日本を、学校をキレイにするため」だったことに気付く。さらに、朴の森スタッフさんより、本「掃除道」を読めば、鍵山相談役が掃除を始めた理由が分かるとアドバイスを受け、本を購入し読了。本を通じて、鍵山相談役が掃除を始めた理由が2つあることを知る。1つ目は、親の几帳面な性格を引き継いだため。2つ目は、イエローハットの前身であるロイヤ

ルを創業時に職場を明るくしたかったため、2つ目においては、高度経済成長の時代で零細企業に優秀な人材が集まりにくく、そして新規営業先も話を取り合ってくれなかった為、社員が廃れていくのを鍵山相談役は感じた。そこで、改善したい一心で、自分に唯一出来る掃除をすることを決意した。掃除をすることで職場をキレイにし、社員に余計なストレスを与えず、職場を明るくしたかった。自分出来る事を最大限に努め、工夫をした結果が今のイエローハットであり、まさに凡事撤退である。そして、後年では「日本をより良くしたい、より良くする上で、自分に出来る事は掃除ぐらいである」とおっしゃられた鍵山相談役の発言が印象的だった。これこそが、鍵山相談役から学ぶべきことだと感じた。今回の教師塾を通して、鍵山相談役のお考えの本質に一步近づけて、凄く学びになりました。

② 仕事・プライベート問わず、凡事徹底に則した行動を取りたい。それが出来れば、何事からも自ずと学びをえて、成長出来ると思う。

★★大阪府・大阪掃除に学ぶ会★★

① 鍵山幸一郎さんが、小さなことを疎かにしない、小さな気配りが大事だと言われたが、資料と一緒に渡されたペット缶のキャップに個人の名前のシールが貼ってあったことである。一見何でもないように思えるが、名前のシールがあることで何処においても人の物と間違えて飲む心配がない。ペット缶なのでお茶が無くなった詰

め替えることもでき、余分な紙コップを使わずにすみゴミを削減することが出来る。掃除道の第一歩をこのことから学んだ気がする。藤野先生からは、道具を大切にするという鍵山相談役の熱い思いを、実際の道具を手にしながら説明していただいた。とても30年物のバケツとは見えなかった。バケツの取手を揃えて5個単位に重なることで数が直ぐ分かる。長靴の見える所に何センチか書いておくことで直ぐ履ける等、1秒で分かるのが凡事徹底だと教えていただき、目からウロコが落ちる思いがした。

② 今回学んだ小さなことをこれからの活動に生かしていくことが、教師塾に参加した意義である。

先ずは道具を大事に扱うことから始めたい。今回の資料にあった仁愛なきリーダーにならないように心がけると共に、実践人の活動を使命感を持ってやっていきたい。

★★神奈川県・会社員★★

① 今回参加させて頂いた目的が、祖父がこれまでどのような事をしてきたのか、そして今このような会で活動なさっている方々がどのような事をされているのか、大きくこの2点をまずは知りたいという思いから参加させて頂いたというものです。

凡事徹底、綺麗にする以外の掃除の意味、はじめは正直なところ何

のことやらでした。

先生方の話を聞き、そしてたくさんの方とお話をさせて頂き、掃除という行為自体に捉われすぎている自分がいることに気が付きました。

掃除と言っても掃除の仕方のみならず、道具の置き方、道具の扱い方、掃除の順番など挙げ出したらキリがありません。一つ一つに意味があり、それはなんの為なのか、効率的な掃除をする為？そうではなく他者への思い遣り、そして自らの視点、視界を広げる為でした。

私はこの二日間でハッとさせられる事ばかりでしたが、掃除というものが持つ意味を学び、そしてそれを理解する事で自分自身の可能性を広げ、またたくさんの人たちとの強く深い繋がりを得る事が出来るという事を学ぶ事が出来ました。

② まずは「気付き」を常に意識しようと思いました。今回の学びを活かす為には視野を広げ、大事な事を見落とさないようにしなければなりません。

私自身が気付いていない大事な事を、他の方が気付き教えてもらい、そこから学ぶ事ももちろん重要な事です。しかし、では他の方も気付かなかつたら、そのまま私も気付かずに終わってしまいます。身近なところですと足元に落ちていた小さなゴミに気付き拾うなど出来る事はたくさんあります。

そう言った自らの行動を実践し継続する事で、私のみならず周りもいろいろな事に気付ける環境が作れるはずです。

2 日目の掃除で感じた事です。が、何事もみんなで行うと楽しいものです。

皆さんが作り上げてきてくださったそのような輪を、これからはまだまだ微力ではありますが、一緒に関わり、そして一緒に良い日本を使っていきたいと強く感じました。

★★★山口県・朴の森スタッフ★★★

① 一人一人の心遣いが周りの環境を良くしていくと思えました。心遣いが出来るのは気付きの力があるからで、それを培うのは掃除だと思えました。

相手のことを思いやり、行動する  
今の荒んだ日本で消えつつある事で、今回の教師塾では沢山の思いやりが溢れており心地の良い環境であったと思えました。

老若男女が集まった教師塾でそれぞれの気づきや感動に触れる事で、見方を変えてみる大切さも学びました。

② 仁愛を実践していきます  
己の行動でしか身につかない事

まずはゴミ拾いをします。ひとつ拾えばひとつだけきれいになるを実践して会社の行き帰りにも気になっているのに目をつぶってしまっている所があるので、行動に移します

★★★大阪府・大阪掃除に学ぶ会★★★

- ① ホースを紐で縛って掛けられるように工夫をしているところが日々木の森は進化する施設なのだと感じました。
- ② 自分の動きをより細分化し、自分も他人も物心共に豊かになれる生活ができるようになります。

★★★京都府・京都掃除に学ぶ会★★★

- ① 今回初めての鍵山記念館の見学、自分の夢が叶えました。歴史感がある建物、自然溢れるデザイン、環境保護の理念、社会持続の商品など、特に掃除道具部屋の見学も大変勉強になりました。道具の整理整頓、手入れなど、すべて整っておりまして、まさに掃除道の精神を表す場だと思います。貴重な勉強な場、実践の場をご提供して頂き、幸一郎さんと利会長さん、藤野さんからのご講話、我々後輩に対する掃除道の心得の教え、とても感動いたしました。それとわざわざ関東、関西から来る実行委員の皆さん、記念館スタッフの皆さん、みんなの温かさ、優しさ、掃除道に対する熱意に感動しました。この素晴らしい会をもっと中国で掃除をする人々を連れてきたい気持ちです。

- ② 今回の学びを通して、日頃の掃除だけではなく、鍵山掃除の理念についての勉強も大事だと思います。自分の周りを掃除して、自

分の心を掃除して、感謝の気持ちで人と接し、元気で前向きな姿勢で日々を過ごしたいです。掃除を追求する道が長くても、遠くても、これからもそれを勉強し、探求して行きます。

★★★埼玉県・東京掃除に学ぶ会★★★

- ① 昨年に続き2度目の参加でした。参加者の方々のご活躍を目にして、自分が昨年から成長していないことに気づかされました。学んだつもりでいて、この一年間どれだけ緩い時間を過ごしてしまったのだろうか、恥ずかしくて堪りません。

今回、幸一郎さんが「ボーっとしていちゃいけないよ」としきりに仰られていました。鍵山掃除道を行く者として、この様なお叱りを受けるのは大変恥ずかしいことです。手入れをしないトイレが汚れていくのと同様、ボーっとしていたら人の心も汚れていくはず。人間は放って置くと楽な方へと流される生き物だということを忘れていました。

困っている人に手を差し伸べたり、人を喜ばせるにはまず「気づき」が必要です。しかしながら、気づきましよう！と言っても直ぐに出来ることはありません。意識を向けることで、日々の生活も気づきの訓練の場となるはず。そう思うと少しもボーっとなんてしていません。

二日目のトイレ掃除実習では、便器を磨けば磨くほど愛着が湧い

てくるのを感じました。便器がニコニコしている様な気がして、私も嬉しくなりました。この「愛着」というのは自分がアクションを起こしたから得られたものであり、勝手に湧き起こる感情ではないと思います。愛おしい人や物で囲まれたらとても幸せです。便器を磨きながら、愛おしさも幸せも自分が作る物なのだとということに気がきました。

鍵山掃除に出逢えたことは私の人生最大の幸運かもしれません。志高い皆様からは、カタチだけの丁寧さではない「真心」を感じるのです。改めてこのご縁に深く感謝致します。鍵山掃除道を行く者として恥ずかしくないように日頃から氣を引き締めていきたいと思えます。

②・墮心に打ち勝つ。迷った時は、自分により負荷がかかる方を選択する。

・日常生活が「氣づき」「氣遣い」「思い遣り」の訓練の場ということを意識する。

・自分から愛ある行動を起こす。

これらを日々の実績に活かしていきたいと思えます。

★★★山口県・保育士★★★

① たくさんのおもてなしの心遣いがあり、とても嬉しく、感動した2日間でした。(食卓の上に様々なお花を飾って華やかに、近距離

でのバス移動、初めて来館された方への案内・声掛け、お茶に一つ一つ記名、スリッパに滑り止め等)

相手を想う心、先を見通して行動することの素晴らしさありがたさを感じました。

最初は入り口の真正面に置いていた受付の机を“来られた方に威圧がないように”と斜めに置き換えておられた所も相手を思う心遣いが素晴らしいと感じました。

マニュアルではなく、その場、その人に応じて、相手を想って行動することを学ばさせていただきました。

講話の中では、“小さなことをおろそかにしない”“目の前の小さな事の積み重ねを大切に”“小さなイライラを減らす”ということが特に心に残りました。

『事件が起きる時にも、小さなことが積み重なって起きる。はじめから大きなことにはならない。』と言うお話から保育現場でも同じことが言えるなと思いました。子どものちょっとした変化、サインを見逃してはいけない、アンテナをしっかりとっておくことの必要性を改めて感じました。

実践からは、連携をとり声を掛け合って進めること、物事の順番、具体的に正確に伝えること、場に合った道具を選び、合わなかったら変えていくこと等の大切さを学びました。

2日目の実践後の感想の分かち合いでは、高校生が事前の自分の目標に対し、どうであったか、次回はどうしたいということを実体的に発表してくれたのを聞き、“続けるから深まる”とはこう言う

ことなのか：続けることの凄さも感じました。

② 見えない相手が嬉しくなるような助かるような、心遣いができるよう、先を見据え考えて動くことを意識する。

お掃除の実践で、連携をとる為に声を掛け合っていたように、職場でも声を掛け合って、連携をとり、子どもたちの安全に繋がっていく。

小さなイライラを無くす為、誰が見ても聞いても分かる具体的に正確な伝え方を意識する。

目の前の小さなこと、気づきを大切にして、子どもたちが安心して過ごせる雰囲気、環境づくりに務めていきます。

無駄のないように、順番の大切さを意識し、考えて生活する。

『タワシはちくちくしてるのが大事だから、強くしたらダメになるんよ』

『スポンジも優しくクルクル使うんよね』

『鏡を拭く時は、仕上げに新聞紙使うといいんて』  
と息子が嬉しそうに話していました。

日頃の生活の中で一緒に学んだことを思い出し繋げていきます。

2日間、たくさんの恵みがありがとうございました。日頃の生活でどのように繋がられるか、日々考えて増やしていきたいです。

★大阪府・大阪掃除に学ぶ会★

① 2日目のトイレ実習の感想発表(自分の班だったか班代表かは不明)で愛着というものは自らの行動により芽生えるといっている人がいました。掃除は毎日丁寧にやるほかないと思います。また、それは掃除だけでなく何事も一生懸命にやってみないと感じる事ができないものだと思います。

② 掃除のようによくいかない、(臭い、暑さなどの)しんどいなかでも一生懸命やる。それは日々の仕事もプライベートも一生懸命に取り組むというシンプルで忘れがちな大事なことだと思います。

★愛知県・教員★

① 2日間という短い期間に関わらず、志高腰低の方々との出会いと、幾つもの学びを得ることができました。中でも自分にとって一番心に響いたのは、「変えちゃいけないことと、時代とともに変えなといけないことがある」という幸一郎さんの言葉でした。恐らく神様はこの言葉を私に与えたくて、今回の教師塾への参加という機会をくださったような気がしています。教員養成の中で、世界広しと言えども日本にしかない「養護教諭」という教育職をめざす学生を育てていくことは、大変やりがいのある仕事ですが、ここ数年、学生の気質の大きな変化にとまどいを覚える日々が続いていました。

幸一郎さんのこの言葉を受け取ったことで、今一度、ここで立ち止まり、変えちゃいけないことは何なのか、また、時代とともに変えないといけないことは何なのかを考えていこうと思います。

② 藤野先生が例に出してください「小豆粒ぐらいの大きさ」ではなく、「スマートフォンレンズぐらいの大きさ」のように、今の時代の学生に伝わる言葉や表現、その提示の仕方にもさらなる工夫が必要なのだと思います。また、学生対応における教員側のマインド面にも変化を求められていると感じます。具体的に何をどう変えていくのか、その一方で、変えずに大切に続けることは何なのかということは今後、学生と過ごす日々の中で模索していこうと思います。末筆になりましたが、幸一郎さん、藤野先生、実行委員の方々、朴の森のスタッフの方々、そして2日間ともに過ごしてくださいました皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

★山口県・大学生★

① 幸一郎さんのお話の中で出てきた、欲望>理性のお話を聞いて、これはまさに自分のことだなと思いました。私は、人前でものを食べることを平気でしていました。ちょっとならいいや誰も見てないと思っていました、とても恥ずかしいことだったと気づきました。欲望が理性よりも大きくなってしまっているのは、そういう行動と

繋がっているとは思っていませんでした。今教えていただけて良かったです。そして、私はいつも何か大きいこと、人がすごいと思うようなことをしようと思っていました。でも、小さな誰にでもできることをおろそかにしていて、結局何も出来ずに終わっていました。

何かを教えて貰ってもそれを実践することもせず、結局何もしないままでもいいこうに変わらず、なんで自分は何も出来ないんだろうと落ち込んでいました。今回学んだことは、教わったらすぐに実践できることだったし、イライラしないとかどうにもならないことをどうにかしようとするのではなくて、そうならないようにする工夫や、どんな人が聞いてもわかるように(スマホのレンズ、小豆、大豆の大きさなど)具体的な例を用いて、伝える工夫でした。小さなことをずっと続ける工夫を大事にする。掃除の説明の時はやり方を口で説明して終わりではなくて、実際に水が流れる音や、キュツという音で説明されていました。牟礼中学校で掃除する時に便器から水を抜いた時にでってくる匂いがきつくて、ゆみこさんがお水をバケツで流されてきました。その時にあの説明で聞いた音が実際に聞こえて、あ、流れた！と私は便器に水を流すのを見るのは初めてだったけどわかりました。便器を掃除する時も、どこが汚れているのかは触ってみたらわかりました。何となく汚いなと思っただけだと何をしたらいいかわからなかったけど、触ってみてザラザラしてるとか、ぬるぬるしてるのかかわかるとサンドメッシュを使えばいいとか、次に何をしたらいいかが自然に見えてきて、動き出せました。実際にやってみて、音や触った感触など五感を使うことが大切なんだとわ

かりました。遠くから、見ていただけだと何も分からないし、動き出せないということを体感できました。

② 人前でものを食べることをやめます。日常生活の中で、いつも避けてしまっている靴を揃えることや、お皿をすぐ洗うこと、使ったものを元の場所に戻すこと、ものをすぐ取りに行くこと、置きっぱなしにしないことなど、小さいけど当たり前のことができるようにしたいと思います。いつもはいろいろなやらないといけないことをさっさと終わらせて沢山勉強しようと考えていたけど、そうではなくて、行動の中心を靴を揃えるとか、すぐ片付けるとか、すぐに取りに行くとかのいつもは小さい事だと思っていたことをすることに変わります。人に何か言うとき、相手が私のことを理解してと考えているのに、伝えたいことがわかって貰えないといらいらしていたので、できるだけ具体的に誰にでも通じるような言葉を使って説明しようと思います。

★★長崎県・教員★★

① まず、「掃除」というものの見方が大きく変わりました。今まで「きれいになった」という達成感だけで満足していました。きれいにすることで、周りの人たちに貢献する、そういうものだと思っていました。しかし、もっと追究していくことで、より早く、より多くの場所をきれいにでき、それと同時に、自らの人間性までも高める

ことができることを知りました。

次に、全国各地に「掃除に学ぶ会」が存在していることに驚きました。自分が全く知らないところで、毎朝公園掃除をされていたり、休日の朝早くから、通りに落ちているゴミを集められたり、学校のトイレを掃除されたり…。このような活動が全国的に行われていることを知り、驚きつつも、尊敬や感謝など、いろいろな気持ちが湧き上がってきました。

そして、一番大きかった学びが、「自分も掃除を通して、もっともつと成長していくことができる」と確信できたことです。挙げるときりがないくらい、本当に多くの学びを得ることができた2日間でした。

② 普段歩いて通勤しているのですが、鍵山教師塾に参加してからは、道中に落ち葉がたくさんあることや、町内の掲示板が汚れていることなどに気が付きました。少しずつではあるものの、今まで何も見えていなかった自分に気が付きました。この「気付く力」をより高めるためにも、自分の身の回りの整理整頓を始めています。普段から「片付け」を意識しているつもりですが、改めて見てみると、物の量が多いことに気が付きました。自分の机の周りや引き出しの中など、片付けをしていきながら、「気付く」力を養い、それと同時に身の回りから少しずつ広げていこうと思います。

★長崎県・教員★

① 「スポンジを人だと思って扱うように。」という言葉が、今回とても心に残りました。しかし、いざ掃除を始めると、ついつい力が入ってしまいスポンジを傷つけてしまいました。(すみません)その時「これまで自分は、いろんな場面で力を入れ過ぎてしまっていたんだな。」と反省した次第です。掃除道具の一つひとつには用途や特徴があり、形には作り手の思いが込められています。鍵山掃除で大切なことは、小さな事柄に思いを巡らせ、ひとつひとつのことを丁寧に果たしていくことだと思いました。

② 週明けに学校のトイレを見た時、今まで気づかなかった汚れが目につき気になりました。その汚れは、子供たちや教職員の日々の生活によって生まれたものです。これから少しずつですが、掃除道で学んだことを生かしながら、それらの汚れを綺麗にしていきたいと思います。”トイレが綺麗になればみんなの心も明るく優しい気持ちになれるのではないか”と、今はそんな思いを持っています。

★京都府・京都掃除に学ぶ会★

① 最近、掃除の活動について「このまま続けていっていいのだろうか」と悩んでいました。とくに何かがあったわけでもありません

が、今から思うと、掃除の活動が「ただの行為の繰り返し」になっていて、目の前の小さなことをおろそかにし、方向性を見失っていたのだと思います。小さなことの変化に気が付く感性が鈍くなり、感動する心が薄れ、当たり前のことを当たり前にしてしまって、感謝すべき対象に気が付かなくなっていました。こんな風に自分を客観視できたのは、今回の研修で、幸一郎さんの「目の前の小さなことを大事にする」「今だけ、自分だけのためだと続けられない」というお話、藤野先生の「方向性を見失わないようにする工夫」のお話が印象に残ったからです。私は、まわりの人たちや世間から置いてけぼりにされたくなくて、必死に外側を見せている部分にばかりを取り繕い、具体的な次元でのやり方にこだわっていた気がします。本当に大切なことは、氷山の目に見えない部分であり、その見えない部分で“何を積み重ねてきたのか”によって、心からの利他的行動に直結するかが問われるのだと思います。その“何”が“掃除”であり、掃除に心からまっすぐに向き合って、積み重ねていきたいと思いました。

② 牟礼中学校のみなさん作ってくださった、ウェルカムボードの言葉「自分から行動する」を実践していきたいと感じました。どちらかというと、待ちの姿勢になってしまいうことが多く、頭の回転が遅いため、人よりも出遅れることが多いのですが、牟礼中学校の生徒さんたちが書いてくれたこの言葉が胸にグサツとききました。いかに自分事として考えるか、自分から声をかけ、自分から譲り、自分から信頼し、自分から笑顔になる。受動的な態度がすべて悪いとは思

ませんが、自分の中にある能動的な部分は出さず、万事受け身に徹するのは、ただ傷つくのを恐れて、自分を守りたいという甘えの気持ちがあるのだと思います。みなさんが、掃除研修の間、写真をとってくださったので、牟礼中学校のウェルカムボードを部屋に貼っておきたいと思います。

★★山口県・教員★★

① 様々な立場の方々とお話ができ、今何をするべきなのか、何を大切にして生きていけば良いのかを学ぶことができました。

教育現場において、掃除はとても大切です。しかしながら、掃除の時間が十分に確保されていないのが現状で、子どもたちと掃除をする時間も少ないです。また、掃除といってもパターン化されている学校掃除なので、道具の使い方や、掃除の仕方などをやはり抑えてから進めていかなくてはならないと感じました。

しかしながら、学校という組織の中で、自分自身だけ動いても深まらないので、周りに広げていくことが大切だと改めて実感しました。

② 学校現場で子どもたちとともに朝ボランティア掃除を行っています。学校現場で子どもたちとともに朝ボランティア掃除を行っています。掃除をはじめ、雑巾や道具の使い方方を再度押さえた上で子どもたちともに行きたくと思っています。

また、人として当たり前前することを当たり前前にできるそんな人間になりたいと思いました。

